



～心踊る世界の楽器 - 絵画「ハーモニー」～ 浜松東ロータリークラブより寄贈 クラブ創立50周年記念に

世界中の楽器とそれを演奏している人々の姿が描かれた絵画が博物館に展示され人気をよんでいます。この絵画は、国際ロータリークラブのひとつである浜松東ロータリークラブが、クラブ創立50周年を記念して、画家ハラダチエさん（東京都在住）に制作を依頼、楽器博物館に寄贈されたものです。去る5月10日（木）に浜松市役所にて古澤敏男同クラブ会長より鈴木康友浜松市長に寄贈目録を贈呈、絵画は18日（金）に博物館に搬入され、19日（土）午後1時より楽器博物館展示室にて絵画除幕式が行われました。

同クラブは平成14年に浜松市楽器博物館友の会の設立に尽力され、その後も楽器博物館の活動を大きく支えて下さっています。クラブ創立50周年を迎えるにあたり、地域に貢献する記念事業を企画され、「友の会の設立依頼何かと縁の深い楽器博物館が、さらに潤いのある文化的な空間となれば」とオリジナル絵画の寄贈を決定されました。



右より池浦副実行委員長、井上ガバナー、古澤会長、ハラダ氏、鈴木市長、嶋館長

ハラダチエさんは武蔵野美術大学日本画学科卒業。在学中より片岡球子氏に師事。数々の賞を受賞され、女性誌のイラストや東京フィルハーモニー交響楽団のポスター、チラシ、プログラム表紙、オペラの衣装デザイン制作など、優しく音楽あふれる作風で知られ、首都圏で活躍されています。今回の絵画は保存の観点から、日本画ではなくアクリル画となりました。

畳一畳ほどの大きさのキャンバスには、インドネシアのガムランやジェゴグを中心に、ビルマの豎琴、インドのシタール、モンゴルの馬頭琴、日本の琴や三味線、韓国のチャンゴ、アラビアのウード、アフリカのジェンベ、アンデスのパンパイプ、ニューギニアのクンドゥ太鼓のほか、ピアノ、ヴァイオリン、ハーモニカ、アコーディオン、マリンバ、オンド・マルトノ、テルミン、バンジョー、カンテレ、ニッケルハルパ、ハーディ・ガーディなど、よく知られた楽器からそうでないものまで、約90種類の世界の楽器と150人の人々が描かれています。タイトルは「ハーモニー」。昨年9月から構想を練り、5月17日に完成しました。

除幕式では、ロータリークラブ池浦副実行委員長から寄贈の経過報告があり、古澤クラブ会長、鈴木市長の挨拶のあと除幕。作者のハラダチエさんからは「大変光栄に思っております」とご挨拶をいただきました。最後に嶋和彦楽器博物館長から「このすばらしい絵は大人にも、浜松の将来を担う子供にも、そして全国からこの博物館を訪れる人にも、きっと楽しんでもらえることでしょう」と謝辞がありました。

この絵は1階アジア展示室奥、ジェゴグのそばの壁にかけられています。どこの国の何と言う楽器かな、実物は展示されているのかな、と見学の楽しみ方がひとつ増えました。皆さん是非「ハーモニー」をご覧になりいらしてください。浜松東ロータリークラブの皆様、本当に有難うございました。

ヴィオラ・ダ・カンパ・コンサートと音楽家「クレメンティ」をテーマに...

第69回レクチャーコンサート ポリフォニーの輝き～ヴィオラ・ダ・カンパ・コンサート～



日時：平成19年4月15日(日) 14:00～16:00
会場：アクトシティ音楽工房ホール
出演：ザ・ロイヤル・コンサート
上村かおり(パルドゥシュ)、坪田一子(トレブル)、
森川麻子(テナー)、譜久島譲(バス)、福沢宏(バス・お話)
入場者：115名

バロック時代の花形弦楽器「ヴィオラ・ダ・カンパ」は、楽器を脚に挟み弓で弦を擦って演奏します。「ガンバ」とは、イタリア語で「脚」のこと。15世紀にスペインで生まれイタリアを經由してイギリスへと伝わり、16世紀から17世紀にかけて高音域から低音域までのサイズの異なるヴィオラ・ダ・カンパによる「コンサート(合奏)」のスタイルで流行しました。当時のイギリスは、多くの旋律が同時に奏でられる「ポリフォニー」が全盛で、多くの作曲家がポリフォニー作品を残しています。特に、各旋律が複雑に絡み合った「ファンタジア」は一世を風靡し、その後J.S.バッハが「フーガ」として完成させました。

このコンサートでは、パルドゥシュ、トレブル、テナー、バスによるヴィオラ・ダ・カンパ・コンサートを、O.ギボンス「5声のイン・ノミネ」、H.パーセル「4声のファンタジア」、J.S.バッハの「フーガ」などの作品に焦点を当て、福沢宏さんによる解説とともにポリフォニーの響きを紹介しました。5台のガンバによる、同族楽器ならではの調和した音色がホールに響き渡り、その柔らかく心地よい音色は、現代の人々の心をも奪い拍手が鳴り止むことはありませんでした。

第70回レクチャーコンサート フォルテピアノの父・クレメンティとその弟子たちの音楽



日時：平成19年6月9日(土) 14:00～16:00
会場：アクトシティ音楽工房ホール
演奏：本多まき(フォルテピアノ奏者)
お話：藤江効子(桐朋学園大学名誉教授)
使用ピアノ：ブロードウッド&サン(イギリス・1802年)
入場者数：207名

当館所蔵のブロードウッド&サン製作のフォルテピアノを使用し、音楽家クレメンティに焦点を当てたコンサートを行いました。

ピアノを習う人が、初期にほぼ例外なく習うことになる曲に、クレメンティの「ソナチネ」があります。初心者向けに作曲されたこの曲ばかりが代表作として有名になっているため、今までクレメンティはあまり評価されていませんでした。この点から出発し、クレメンティのさまざまな業績や音楽を、藤江効子さんのお話と本多まきさんの演奏で楽しみました。

ソナチネの作曲者として有名なクレメンティですが、彼の業績は多岐に渡っており、作曲だけでなく演奏や楽器の製作、楽譜の出版、弟子の育成など、さまざまな才能を発揮した人物でした。モーツァルトと腕比べをしたり、ベートーヴェンの才能を早い時点で見出し、彼の曲の出版を行ったことなどが紹介され、それぞれの時代の代表曲の演奏を交えて、クレメンティの魅力を紹介しました。

クレメンティの弟子フィールドにも触れ、ショパンの有名な「ノクターン」は、実はフィールドが作曲した「ノクターン」に触発されて作られたものであることが紹介され、実際の演奏を聴いてお客さんもうなずいていました。

特別展示 2段鍵盤ピアノなどピアノ13点



2段鍵盤のピアノを見学

特別展示「ピアノ展」

会期：平成19年4月27日(金)～

6月10日(日)

会場：楽器博物館 第4展示室

普段は収蔵庫に保管されているピアノのなかから、19世紀から20世紀前半にかけてヨーロッパ各地で製作された13台のピアノを展示しました。2段鍵盤のウェーバー製のピアノ(イングランド・1925年頃)、美しい絵が描かれているエラール製のピアノ(パリ・1900年頃)、見事な象嵌(ぞうがん)細工が施されているギルソン製のアップライトピアノ(パリ・1860年頃)など、それぞれ見た目にも美しく個性的なピアノを紹介しました。

展示ピアノ一覧

W.シュトダード(ロンドン・1808年)、ブロードウッド(ロンドン・1828年)、J.H.パープ(パリ・1835～40年)、クナーケ(ドイツ・1808～1920年)、J.B.シュトライヒャー(ウィーン・1845～57年)、ポワゼロ(マルセーユ・1839年)、K.パフ(ウィーン・1823年)、ペーゼンドルフアー(ウィーン・1870～75年)、J.サイモン(ウィーン・1829年)、J.ブロッツマン(ウィーン・1820～22年)、ウェーバー(イングランド・1925年頃)、エラール(パリ・1900年頃)、ギルソン(パリ・1860年頃)

世界の音楽を楽しく紹介・ゴールデンウィークミニコンサート

地下ステージにて

「アフリカのハーブ・ニャティティ」

日時：5月3日(木) 14:00、15:30

参加者：140名

出演：向山恵理子(ニャティティ)、
富松可奈子(ダンス)、川崎幸絵(ダンス)

ニャティティはケニア・ルオー族に伝わる楽器で、本来は男性しか弾くことを許されていません。向山恵理子さんは、その習得・演奏を世界で初めて許された女性です。ニャティティは、8本の弦を両手ではじきながら、足首につけた鈴を鳴らし、さらに足の親指にはめた鉄の輪を杵に打ちつけて鳴らします。メロディと打楽器をなんと1人で担当します。

向山さんの明るくパワフルな歌と演奏、さらにエネルギッシュなダンスが加わり、コンサートはヒートアップ。お客さんも加わっての踊りの輪ができました。



「インドの弦楽器・サーランギ」

日時：5月5日(土) 14:00、15:30

参加者：220名

出演：小林祐介(サーランギ)

サーランギは、現地の言葉で「100の音色」という意味です。旋律を演奏する弦とは別に共鳴させるための弦が張られ、演奏すると共鳴弦が共鳴し独特な響きを生みます。この楽器は、ダンスや歌の伴奏に使われていますが、インド本国でも後継者が減ってきているそうです。インドの音楽だけではなく、日本の童謡をまじえて、神秘的な音色を奏でるサーランギにお客さんはうっとりしていました。インドの香り漂う演奏に魅せられ、多くのお客さんが終わった後も熱心に質問をされていました。



「ロシアの電子楽器・テルミン&マトリョミン」

日時：5月4日(金) 14:00、15:30

参加者：395名

出演：竹内正実(テルミン)、アンサンブル・マーブル(マトリョミン)

テルミンは、ロシアの物理学者テルミン博士によって1921年に発明された電子楽器です。2本のアンテナに手を近づけて旋律を奏でる、という独特のスタイルで演奏します。このミニコンサートでは、テルミンだけでなく、テルミンの機能をロシア人形「マトリョーシカ」に収めた「マトリョミン」も登場しました。総勢12名のグループ「マーブル」によるマトリョミンの合奏は、まるで12体の人形が一齐にハミングしているようで、不思議な音色がステージいっぱい響き渡りました。

竹内正実さんの興味深いお話も交え、観客の心を釘付けにした今回のコンサート。終演後は、もっと間近で見ようという、マトリョミンの周りには人だかりができていました。



「インドネシアの竹のベル・アングルンを弾こう！」

日時：5月6日(日) 14:00

参加者：42名

出演：梅田徹(当館学芸員)

アングルンは、インドネシア、マレーシア、タイなどで使われている竹で作られた打楽器です。一台ごとにひとつの音しか出せないのが、ハンドベルのように何人かで協力して合奏します。今回は、来館されたお客さんに演奏者になっていただき、即席の合奏団を結成して演奏しました。童謡の「ふるさと」やインドネシアで実際に演奏されている「老オウムの歌」などを演奏し、展示室には「カラカラカラ…」と涼しげな音色が響き渡りました。



叩かないで鳴らす太鼓を多数紹介



日時：平成19年6月16日(日)
14:00～16:00

会場：アクトシティ研修交流センター

講師：西岡信雄(大阪音楽大学教授、当館名誉館長)

参加者：34名

講座「楽器の中の聖と俗」第39回：叩かない太鼓

楽器や音楽の謎に、様々な視点からアプローチする、連続講座「楽器の中の聖と俗」。本年度第1回目のテーマは「叩かない太鼓」。太鼓は叩くものとは限りません。擦ったりひっかいたり、人間は様々な方法で音を鳴

らそうと試みてきました。例えば鼓面を「擦る」太鼓。直接手や布で擦ったり、あるいは鼓面に接触する棒や紐を擦ったり。様々な「擦る」太鼓は、世界のあちこちで見られます。

ルーマニアのフハイもその一つ。フハイとは「牛の声」という意味だそうです。羊の革に固定した馬の尻尾を、濡れた手で擦ります。すると、フーという感じの何ともいえない鈍い音がします。収穫を願う呪術的な意味があるそうで、毎年正月に、その年のパンが上手くできるよう、その全工程(畑を耕す→種を蒔く→収穫する→パンを焼く)が成功することを願う歌の伴奏に使うそうです。

講座では、その他様々な太鼓が紹介されました。いずれも叩いて鳴らす太鼓の快音とは程遠い地味な音。いわゆるヒーリングミュージックとも違う、音楽の興味深い世界に触れる講座でした。

新発売 19世紀のトランペットとオリジナルサクソフォーンの2種

ご好評をいただいている、コレクションCDシリーズの最新作を3月18日に2種類発売しました。すべて当館所蔵楽器を使用し、ナチュラル・トランペット、キー・ピューグル、コントラルト・サクソルンなどのめずらしい金管楽器13本や、サクソフォーンの

考案者アドルフ・サククスが製作したサクソフォーン5本の音色を紹介しています。コレクションCDシリーズは、当館売店、一般CD販売店インターネットの通販サイト「アマゾン」などでお買い求めいただけます。

コレクションシリーズ11「19世紀のトランペット」

曲目：トランペット教本より(F.G.A.ドーヴェルネ)、歌の翼に(F.メンデルスゾーン)、ヴェニスへの謝肉祭(J.アーバン)他

演奏：神代修、小倉貴久子(ピアノ)
使用楽器：金管楽器12本(19世紀)、ナチュラル・トランペット1本(18世紀)、ピアノ(1874年パリエラール製)

当館売店価格2,200円(税込み)

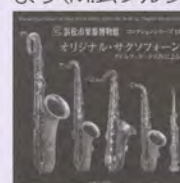


コレクションシリーズ12「オリジナル・サクソフォーン」

曲目：四重奏曲第1番(J.サンジュレー)、古城～展覧会の絵より(M.ムソルグスキー)、ジムノペディ第1番(E.サティ)他

演奏：井上麻子(ソプラノ)、篠原康浩(アルト)、中谷龍也(テナー)、飯森伸二(メロディー、バリトン)
使用楽器：サクソフォーン(アドルフ・サククス作)ソプラノ1860年、アルト1859年、テナー1859年、バリトン1860年、メロディー1855年、ピアノ(1874年パリエラール製)

当館売店価格2,200円(税込み)



企画展「知恵と工夫の万華鏡～素材で楽しむ楽器たち」もうすぐ開催

楽器には、竹・ひょうたん・木・牙・皮・骨・土・石・プラスチックなど、さまざまな素材が使われています。それら素材をみると、身近なものを利用したもの、素材の特性を活かしたものなど、それぞれの楽器ごとに、楽器をつくり使ってきた人々の工夫や知恵を伺うことができます。この企画展では、特徴的な素材の楽器約100点を紹介します。期間中には、ストローおじさんでおなじみの神谷徹さんによるミニコンサートや、ストロー笛づくり工房（毎日開催・時間制）も行います。



◆これからの催し物

- ミュージアムサロン 職員やゲストによる演奏
 - 7/22(日)「箏」 出演：島津成悠
 - 7/29(日)「オカリナ」 出演：小林理子
 - 8/5(日)「愉快的なストロー笛」 出演：神谷徹(大阪音楽大学講師)
 - 8/9(木)「マリンバと打楽器」 出演：小学生打楽器合奏団
 - 8/12(日)「南米のハーブ・アルパ」 出演：長島忠之(アルパ演奏者)
 - 8/19(日)「アメリカ生まれの弦楽器・バンジョー」 出演：ジェフリー・ヤマダ(バンジョー奏者)
 - 8/26(日)「ドラム缶の楽器・スティールパン」 出演：楽器博パンバンド
 - 9/16(日)「薩摩琵琶 ミニコンサート」 出演：新島楽器総合社
 - 9/30(日)「ホルン・ミニコンサート」 出演：松浦謙(ホルン奏者)
- ※時間は開催日により異なりますので、お問い合わせください。
- 展示室ガイドツアー 毎日曜日 展示品の解説
 - ※催し物により変更もあります。
- 展示品の演奏デモンストレーション 毎日10:00～16:00
 - 1時間毎 チェンバロや19世紀のピアノなどのデモ演奏
- 企画展「知恵と工夫の万華鏡～素材で楽しむ楽器たち」
 - 8/1(水)～9/2(日) 第4展示室
 - 竹、ヒョウタン、骨、石、皮、プラスチック・・・色々な素材でできた世界の楽器を紹介します。
- レクチャーコンサート
 - 「ナチュラル・ホルンの愉しみ～ベートーヴェンとモーツァルトのホルン作品～」
 - 9/2(日) 14:00 アクトシティ音楽工房ホール
 - 演奏：塚田 聡(ナチュラル・ホルン)
 - 小倉貴久子(フォルテピアノ)
- 世界の楽器体験ワークショップ
 - 7/7(土)「ジャワ・ガムラン」
 - Aコース 17:15、Bコース 19:30
 - 講師：中川真(大阪市立大学教授)
 - 7/8(日)「ジェンベ」
 - Aコース 13:00、Bコース 15:00
 - 講師：寺崎卓也(アフリカ音楽研究家)
 - 8/19(日)「バンジョー」
 - Aコース 10:30、Bコース 13:00
 - 講師：原さとし(バンジョー奏者)

会 期：平成19年8月1日(水)～9月2日(日)

会 場：楽器博物館 第4展示室

観覧料：常設展観覧料でご覧になれます

大人400円、高校生200円、中学生以下、
高齢者(70歳以上)、障害者は無料

ミニコンサート「愉快的なストロー笛」

日 時：平成19年8月5日(日)14:00～

出 演：神谷 徹(大阪音楽大学講師)

会 場：楽器博物館 展示室

入館者はどなたでもご覧いただけます。

お知らせ

夏の金・土曜日は夜7時まで開館しています

実施日：7/27、28、

8/3、4、10、11、17、18、24、25

公式ブログはじまる～日々の活動を紹介～

4月27日からホームページに公式ブログ「楽器博日記」を公開しています。館内の催しや、日々の出来事など、新しい情報を随時掲載していきます。ぜひご覧ください。

<http://www.gakkihaku.jp/blog.index.html>

◆博物館日誌

- 4/1(日) 政令指定都市移行記念 無料開放
入館者1708名
- 4/8(日) ミュージアムサロン「マンドリン」14:00
出演：北川敏行(当館職員)
参加者50名
- 4/15(日) レクチャーコンサート「ポリフォニーの輝き～ヴィオラ・ダ・ガンバ・コンサート」
14:00 アクトシティ音楽工房ホール
演奏：ザ・ロイヤル・コンサート 入場者115名
- 4/27(金)～6/10(日) 特別展示「ピアノ展」
入館者13461名
- 5/3(木) ミニコンサート「ケニアのハーブ“ニャティティ”」
14:00、15:30 演奏：向山恵理子 参加者140名
- 5/4(金) ミニコンサート「電子楽器“テルミン&マトリョミン”」
14:00、15:30 演奏：竹内正実&マープル
参加者395名
- 5/5(土) ミニコンサート「インドの楽器“サーランギ”」
14:00、15:30 演奏：小林祐介 参加者220名
- 5/6(日) ミュージアムサロン「アンクルンを弾こう!」14:00
出演：梅田徹(当館職員) 参加者42名
- 5/19(土) 浜松東ロータリークラブ寄贈絵画 除幕式
- 6/9(土) レクチャーコンサート「フォルテピアノの父・クレメンティとその弟子たちの音楽 ～プロドウッド・ピアノとともに～」
14:00 アクトシティ音楽工房ホール
演奏：本多まき(フォルテピアノ奏者)
お話し：藤江効子(桐朋学園大学名誉教授)
入場者207名
- 6/10(日) ミュージアムサロン「足踏み式リードオルガ」14:00
出演：森本佐知子・篠原舞(当館職員) 参加者38名
- 6/16(土) 講座「楽器の中の聖と俗」第39回「叩かない太鼓」
14:00 アクトシティ研修交流センター
講師：西岡信雄(大阪音楽大学教授) 参加者34名
- 6/27(水)～6/29(金)
移動楽器博物館(浜松市立伎倍小学校)

利 用 案 内

開館時間：午前9:30～午後5:00

休館日：毎月第2水曜日(祝日の時は翌日)、年末年始、
その他施設点検等のための臨時休館日

常設展観覧料：個人 団体(20人以上) 団体(80人以上)

大人(大学生以上) 400円 320円 240円

中人(高校生) 200円 160円 120円

※中学生以下、高齢者(70歳以上)、障害者の常設展入館料は無料です。

浜松市楽器博物館だより

平成19年7月1日発行 No.48

編集 浜松市楽器博物館
〒430-7790 静岡県浜松市中区中央3-9-1
TEL 053-451-1128
FAX 053-451-1129
URL <http://www.gakkihaku.jp>
MAIL wakuwaku@gakkihaku.jp
印刷 株式会社シバプリント